伊勢崎市立境南中学校だより　　令和５年９月２８日

南の風

NO．１１

本校生徒の良さを伸ばし、さらなる飛躍に向けて
～令和５年度全国学力・学習状況調査の結果から（その１）～

本年4月実施の全国学力・学習状況調査の分析を通し、本校3年生の傾向と対策などについてお知らせします。本年度は、「国語」、「数学」、「英語」、「生徒質問紙調査」が実施され、8月に調査結果が学校に届きました。本校では、分析を基に、生徒の良さを伸ばし、さらなる飛躍に向けて対策を講じ、全学年において活用・推進していきます。

3年生は、配付の調査結果をもとに、自分自身の目標に向け生活・学習の充実に活かしましょう。1年生及び2年生は、参考にして自らの取組の一層の充実につなげましょう。

保護者の皆様、本校の取組につきまして、今後とも、ご理解とご協力をお願いします。

［本校の傾向と対策について］

調査結果から読み取れる傾向と対策は、次のとおりです。なお、本調査によってわかるものは幅広い総合的な学力のうちの特定の部分であり、生徒の学力のすべてを示すものではありません。

１「国語」について

「国語の勉強が好きである」、「国語の授業内容がよく分かる」、「国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫している」などの回答が、県及び全国平均を大きく上回りました。

生徒の全体の平均正答率は、県及び全国平均より高い結果となりました。領域別学習状況では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」が県及び全国平均正答率を上回りました。一方、「書くこと」では県及び全国平均正答率をやや下回りました。このことから、文章表現や文章読解に必要な知識・技能は身に付きつつあるが、それらを活用して自分の考えをまとめて書いたり、情報と情報の関係性を考えて読んだりする力の向上が課題であると考えます。

評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」の平均正答率が、県及び全国平均を上回りました。

【これまでの取組の成果として】

○　説明的な文章および文学的な文章の学習において、意味調べに取り組むとともに、授業中に分からない単語や慣用句が出てきた際にはその場で主体的に調べる習慣を身に付けることができたことで、生活に即した語彙や抽象的な概念を表す語句の量を増やすことができています。

○　古典に関する学習において、現代語訳や語注を手掛かりに場面の設定や登場人物の心情を考える活動を行ったことで、古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える力を高めることができています。

○　自ら問いを立て、それらを解決するためにグループで話し合う活動を積極的に取り入れたことで、自分の知りたい情報を得るために質問をしたり、友達の考えを聞いたりする力を高めることができています。

【今後の対策として】

◇　「書くこと」の学習において、自分の考えを相手にわかりやすく伝える文章を短時間で書く力を高めるために、誰に対して何を伝えるための文章なのか、根拠は明確かなどを意識して短い文章を書く活動を繰り返し設定していきます。

◇　意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解しながら読んだり、書いたりする力を高められるように、ICT端末を利用するなどして書いた文章を読み合い、足りない情報やより伝わりやすい文章構成について話し合いながら推敲する活動を行っていきます。

◇　「読むこと」の学習において、論理の展開や表現の効果について、考えられるように、複数の文章を比較しながら読み、文章の特徴について考える活動を取り入れていきます。

２「数学」について

「数学の勉強は大切だと思う」、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思っている」などの回答が、県及び全国平均を上回りました。

領域別学習状況では、「図形」、「関数」、「データの利用」が、県及び全国平均をやや下回りました。一方、「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる」設問では、県及び全国を上回りました。「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる」設問では、平均正答率が県及び全国をやや下回りました。これは、相手に適切な情報を伝える基礎・基本的な表やグラフの見方が十分にできていないことにつながります。基礎・基本、問題解決のための知識・技能の定着が不十分であると考えられます。

評価の観点「思考・判断・表現」の平均正答率が、県及び全国平均を上回りました。

【これまでの取組の成果として】

○　「なぜ?」、「どうして?」を大切にした授業を行ったり、自分の意見や考えを深めさせるために生徒に説明させたり、話し合い活動、学び合い、グループ活動等を通して、あきらめずに課題に取り組むこと（粘り強さ）、どうにか問題を解決する方法はないかと考えること（調整力）に結びついています。

○　授業の中で、生徒同士で学び合う場面を意図的に設けることで、生徒が授業に積極的に参加できるようになっています。

【今後の対策として】

◇　「なぜ?」、「どうして?」、「もっとやってみたい」を大切にし、既習事項の振り返りなど、生徒が互いに説明し合う機会を意図的に設定し、生徒主体の授業になるように改善していきます。

◇　主体的な家庭学習の習慣、意欲的な学習への取組につなげるために、ICT機器を活用するなど学習課題を計画的に設定し、学習の質が高められ、生徒が主体的に学習に取り組めるように支援していきます。

３「英語」について

「英語の勉強が好きである」、「英語の勉強は大切である」、「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」等の回答が、県及び全国平均を大きく上回りました。

生徒の全体の平均正答率は、県及び全国平均を大きく上回りました。領域別学習状況では、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」が、県及び全国平均を大きく上回りました。問題形式別に見ると、選択式や短答式において全国平均を大きく上回りました。特に「話すこと」において、口述式の平均正答率が全国平均を大きく上回る結果となりました。一方、「説明するまとまりのある文章を書く」問題や「質問文を言う」問題においてのみ全国の平均正答率をわずか下回りました。理由としては書く内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかったものと考えられます。

評価の観点「聞くこと、読むこと、書くこと」の平均正答率において、「知識、技能」「思考、判断、表現」共に全国平均、県平均を上回りました。「話すこと」において、「知識、技能」「思考、判断、表現」共に全国平均を上回りました。

【これまでの取組の成果として】

○　即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動に継続して取り組んできたことで、理解力、表現力が向上しています。

○　英語の文章を読んで全体の概要や要点をとらえる活動において、生徒同士で学び合う活動を継続したことで、生徒が授業に積極的に参加し続けることが顕著にできました。

【今後の対策として】

◇　生徒たちの「なぜ？」、「なるほど」、「もっとやってみたい」を大切にし、生徒が互いに伝え合う活動を継続していきます。その際に、ICT等を活用し、自分の考えや意見等を書いて伝え合う機会を意図的に設定し、増やしていきます。

※　次号で令和５年度全国学力・学習状況調査結果の続き（その２）をお知らせします。